

東アジア研究学域 入学前課題講評

課題①は、2016年12月19日～2016年1月7日までの新聞から、中国（台湾・香港・澳門）及び韓国・北朝鮮に関する記事をすべて探しだし、それらの記事の「掲載日」と「見出し（タイトル）」の一覧を作成するというものでした。

東アジア各国の情勢は、刻一刻と変化しています。東アジア研究学域は、中国古典文学や思想、東洋史、現代中国・現代韓国・現代朝鮮など、中国・朝鮮半島について幅広く学ぶことができる学域です。特に外国を対象とする地域研究は、古典を研究する場合でも、対象地域が現在どのような状況なのかを観察し、現状を把握することは、とても重要です。課題①では、一定期間に掲載されたすべての記事の一覧のリストを作成し、自分が関心を持つことさらに限定せず、政治・経済・社会・文化など幅広いことさらにについて情報収集し、関心を持ってもらうことを意図しました。

対象となる新聞は各自が自宅や図書館などで読むことのできる新聞1紙としましたが、選択された新聞は全国紙から各地の地方紙まで大変多様でした。今回該当期間中に、韓国は大統領弾劾や「慰安婦」問題で、中国は領土問題で、いつもより比較的多くの記事が掲載されました。提出物では、全体として、中国・韓国に関する記事を丁寧に探し出し2～3ページにかけてリストを作成した生徒が大部分でした。ですが、中には一覧の記事数がかなり少ない生徒もいました。同じ新聞を選んだ場合でも記事数が少ないということは、見出しに見落としがあったということです。東アジア研究学域では、今後も様々な調査で、新聞記事を利用することが出てきます。日ごろから、主要な新聞の国際面やニュース番組で、どのようなニュースがアジアに関連して報道されているのか、気にかけるようにしてほしいと思います。

課題②では、見出し一覧の記事をすべて読んだ上で、日中韓三国の関係について、自分の考えを1200字程度で書いてもらうものでした。出題意図としては、見出しだけではなく記事の内容をしっかりと読んで理解し、さらにその内容について深く考えてもらうことが目的でした。

ちょうど対象時期に、「慰安婦」問題に関する日韓「合意」で新しい動きがあったり、また領土問題と絡む中国の動きなど、はからずも東アジア関係で最も懸案とされる問題が注目されました。提出物でも、これら日中韓の懸案事項について論じたものが大多数で、中には他の書籍を参考にしながら考察した論考も見られました。自分の考えを展開するにあたって、記事だけではなく、他の情報や資料を使って議論を深めることは、今後大学での学びの中で、最も基本的かつ重要なことです。

なお、今回の課題の提出率は、83%でした。入学が決まり最も自由にできる時間が多いこの時期に、大学での学びに向けての準備を怠らずに努力を積み重ねることで、自分の可能性をもっと広げていってほしいと思います。

